

つむぐ会だより

令和5年度第5回介護と医療をつむぐ会
令和6年3月1日(金)
開 催 報 告

No.26 令和6年6月発行 ●発行/流山市 ●編集/介護支援課

「在宅療養高齢者の救急要請から病院受け入れ
の実際～急変時における医療・介護・消防
の円滑な連携とは～」

令和6年3月1日(金) 流山エルズにて、上記を
テーマに、流山市内の医療・介護の専門職を対象に
研修会を開催し56名の参加がありました。

消防との質疑応答

消防(救急)に流山市の高齢者の救急搬送の現状、救
急の問題課題についてお話をいただき、その後質疑応
答を行いました。

主な質問として、利用者情報がない場合どのようにす
ればいいのか。救急車に同乗できない場合どうすればい
いかという質問が出ましたが、救急隊からは、「分から
なければわからない、できないことはできないと伝え
てくれば、その情報を病院に伝え受け入れ先を探す」
との回答がありました。

アンケートからは救急隊の話を聞くことができ、日頃
悩んでいたことが少し解消された気がする。救急隊の業
務、置かれている状況が理解できた。救急搬送について
ほとんど無知であったので、現在の状況を知れたのは
よかった。様々な状況がありスムーズな搬送につながら
ない場合や、本人の状況を共有できていないなど多
くの問題があるが、何とか簡単にできないものかとの
意見が出ました。

次回のつむぐ会は、
7月12日(金) 18時45分から20時45分
中央公民館 第2会議室にて

テーマ「神経難病患者の薬物治療について
—薬剤師の視点から—」

介護保険の特定疾病の半分が指定難病です。今
後、多様な課題に対応できることが求められて
います。神経難病について学ぶとともに、関わり
方、他職種との連携について考えます。
是非、この機会を御活用ください。

グループワーク

必要情報の伝達、他職種の職域理解を目的と
し、救急隊到着から病院への受け渡しまでのロ
ールプレイングを行いました。

設定は、一人暮らしの80歳男性、流山和夫
さんが、いつもと様子が違うことを、訪問介護
員が発見し、救急要請し救急隊が到着したとこ
ろから始まります。まず、救急隊、病院関係者、
地域包括支援センター長が設定に沿って演じる
場面を見てもらい、その後グループで演じても
らいました。

アンケートからは、救急隊に演じてもらった
ことで、臨場感があり患者への声のかけ方、状
態観察、訪問介護員への情報の取り方など、他
職種の立場になることで、相手が求めているこ
とを理解できた。ロールプレイを通し、実際の
急変の場に立ち会ったらどのような情報を伝え
ることが大事なのか学んだ。介護支援専門員の
負担が大きいことが理解できた。グループ討議
の中で救急情報カードやお薬手帳の活用につい
ての情報を得ることができた。平時から準備で
きることをグループで考えることができた。と
の意見がありました。

アンケート抜粋

- ・「介護と医療をつむぐ会」のタイトル通りであつ
たと思う
- ・お互いの立場を理解できる場でありよかった
- ・課題抽出の機会となった。できそうなこと、長期
的な課題と整理できたのがよかった
- ・今回抽出された課題についてさらに、関係者職種
を招いて意見交換できるといい
- ・所属団体に研修したい